

# 羽島市議会 産業建設委員会活動報告書（令和7年度）

（令和8年3月31日 作成）

## 1 所管事項

商工、観光及び労働、農業及び土地改良、道路・水路の管理、道路整備及び河川整備都市計画、土地区画整理、建築、上・下水道に関する事項

## 2 重点テーマ

- ・観光とまちづくり（新橋開通とサイクルツーリズム、歴史的町並みの活用、LRTの研究）

〈担当：川柳雅裕委員長、河崎周平副委員長、安藤誠委員、安井智子委員、堀隆和委員、山田紘治委員〉

## 3 調査・研究概要、結果

### (1) 市民から意見聴取

- ・令和7年11月30日（日） 午後1時から午後3時まで  
文化センター301号

- ・参加者：13人

- ・「観光とまちづくり」をテーマに意見交換会を開催し、市民から意見を聴取

### (2) 先進事例調査

- ・令和7年10月22日（水）～10月24日（金）

- ・視察先

- ・栃木県宇都宮市（宇都宮 LRT 事業について）
- ・栃木県栃木市（歴史的街並み・伝統的建造物の保全、活用について）
- ・栃木県佐野市（フィルムコミッションについて）

## 4 活動のまとめ（重点テーマ等に対するまとめ）

- ・観光とまちづくりについて（文責：川柳委員長）

市民や関係者との意見交換を通じ、本市の観光資源に対する関心の高さが再確認された。

現状の強み：新幹線駅を中心とした交通インフラの優位性。「円空誕生の地」としての歴史的価値、および伝統的な祭事・イベントの継承。

課題と展望：インバウンド対応の強化：京都と飛騨高山という二大観光地の中間に位置する地理的メリットを活かしきれていない現状がある。外国人観光客を呼び込むための戦略的な誘致策が急務である。

## 5 各委員の意見

### ・川柳委員長

宇都宮市までの移動手段として利用した新幹線のなかで懸念していた「低速感」はなく、定時性・快適性ともに高い水準であった。岐阜県内への敷設は期待されるが、最大の焦点は「需要（利用者数）」の確保である。路線の整備が人口増や地域の賑わい創出に直結するか、慎重かつ戦略的な検討を要する。

本市には「羽島市歴史民俗資料館・映画資料館」という独自の資源があり、ロケ地誘致と親和性が高い。撮影スタッフの移動に欠かせない「交通の利便性」という強みを活かし、映画製作という「作る側」の視点を取り入れた新たな誘致活動の可能性がある。

#### 提言する項目

- ・通過点から滞留点への転換：外国人旅行者に人気の「京都」と「飛騨高山」の中間地点にあたる交通の要衝であることを活かし、インバウンド層をターゲットにした「立ち寄りスポット」の整備と情報発信を強化すること。
- ・LRT等の新交通システム検討：導入にあたっては、単なる移動手段としてではなく、まちづくり（居住促進・商業活性）との連動性を厳密にシミュレーションすること。
- ・既存資源の多角的活用：映画資料館等の既存施設を核に、フィルムコミッション等の新たな切り口で「マニアックな来訪者」から「一般観光客」まで幅広く呼び込む施策を展開すること。

産業建設委員会の扱う分野は、市民生活の基盤や目に見えるモノや成果に直結する。今後も一委員として、また一住民としての視点を大切にしながら、本市の発展に向けた研鑽と政策提言に努めていきたい。

## ・河崎副委員長

本年度の行政視察では、地域資源を活かした観光とまちづくりの先進事例として、宇都宮市、佐野市、栃木市の取り組みを学びました。これらの事例に共通していたのは、交通、歴史資源、情報発信などの地域の強みを明確な都市ビジョンのもとに活用し、人の流れと経済活動を生み出している点です。

宇都宮市では「ネットワーク型コンパクトシティ」という都市構想を掲げ、その中核 交通として 2023 年に芳賀・宇都宮 LRT を開業しました。LRT は単なる公共交通ではなく、都市構造そのものを再設計する政策として位置づけられており、通勤渋滞の緩和に加え、沿線地価の上昇や転入人口の増加など都市価値の向上にもつながっています。また、幹線交通と地域交通を組み合わせたネットワーク型の交通体系は、将来のまちづくりを考える上で大きな示唆となりました。

一方、佐野市ではフィルムコミッションを設置し、映画やドラマのロケ誘致を通じて地域の魅力を発信しています。行政が中心となりロケ地紹介や撮影支援を行うことで、宿泊や飲食など地域経済への波及効果を生み出すとともに、作品の舞台となった場所を訪れる「聖地巡礼」といった新たな観光需要も創出しています。また栃木市では、蔵造りの町並みを地域の歴史資源として保存・活用し、空き家を活かした店舗や交流拠点の整備などにより、街並みそのものを観光資源として発展させています。

こうした視察を踏まえ、市民意見交換会では、羽島温泉や寺院巡り、モーニング文化などが外国人にも人気であることや、観光地を案内するコーディネーターの必要性、スマートフォンを活用したスタンプラリーや御朱印企画、外国語対応アプリの整備など、具体的な提案が数多く寄せられました。また、田んぼアートやひまわり畑・コスモス畑など四季を感じられる観光資源の整備、新幹線駅南側の活用、安心して散歩できるコースや川を眺める景観スポットの整備など、地域資源を活かした観光の可能性についても意見が挙がりました。

羽島市は、東海道新幹線の岐阜羽島駅と名神高速道路の岐阜羽島インターチェンジを有する交通利便性の高い都市です。将来的に LRT など新たな交通インフラが加わる可能性もある中で、交通の強みと地域資源を結び付けた都市戦略を描くことが重要です。今回の視察と市民意見を通じて、交通、観光、地域文化を組み合わせた総合的なまちづくりの必要性を改めて認識する機会となりました。

## ・安藤委員

本年度、産業建設委員会では、観光と街づくり（新橋開通とサイクルツーリズム、歴史的街並みの活用、LRTの研究）を主題として、行政視察及び市民との意見交換を実施し、本市の課題と今後の施策の方向性について調査・研究を行いました。

行政視察では、栃木県宇都宮市におけるLRT事業、栃木県栃木市における歴史的街並みの保全・活用、栃木県佐野市におけるフィルムコミッションの取組について調査を行った。

宇都宮市では、LRTを核とした公共交通中心のまちづくりにより、交通環境の改善のみならず、人口流入や地域活性化など都市構造の変化が見られた。本市においても、岐阜羽島駅を活かした交通政策の再構築と、地域交通の再編が重要である。

栃木市では、歴史的建造物の保存と活用を両立させることで、地域の魅力向上と観光振興を実現していた。本市においても、竹鼻地区などの歴史資源を活かし、住民との合意形成のもと、景観整備や空き家活用を進める必要がある。

佐野市では、フィルムコミッションにより撮影誘致と観光振興を一体的に推進し、地域経済への波及効果を生み出していた。本市においても、交通利便性や施設資源を活かし、ロケ誘致に向けた体制整備が求められる。

また、市民との意見交換では、「魅力の発信不足」「歴史資源の未活用」「若者が集まる仕組みの不足」などの課題が共有され、本市は資源がありながら活用と発信が十分でないことが明らかとなった。

以上を踏まえ、本市の課題は、①公共交通とまちづくりの連携不足、②地域資源の活用戦略の未整備、③情報発信力の弱さであると整理する。

今後は、公共交通の再構築、歴史資源の活用促進、フィルムコミッションの導入検討、市民参加と情報発信の強化を柱として、分野横断的な施策を推進する必要がある。

引き続き、市民の声を踏まえた実効性ある政策提言に取り組んでいく。

また、産業建設委員会が所管する「農業」についても深掘して研究を継続が必要である。

## ・安井委員

意見交換会では、観光とまちづくりをテーマに市民から意見を聞いた。羽島市は、観光地として強いブランド力は強くないが、アクセスは岐阜羽島駅、岐阜羽島ICがあり、非常に良く、名古屋圏からも近いことから、観光面では特に日帰り客やリピーターの増加を図る必要がある。よくある派手な観光地ではなく、市民に優しい観光地となるよう努力すべきである。羽島市の魅力を活かしつつ、市民にも訪れる人にも心地よいと思えるまちづくりについて、様々な視点から考える必要がある。

LRT事業について最大の条件は、通勤・通学の安定需要や観光・イベントの需要、商業施設・病院・大学などの集積である。羽島市は新幹線があるが、滞在型の都市ではない。車社会で公共交通需要が弱いため、人が移動する理由を増やすことが最優先。例えば、駅前再開発（商業ビルやオフィスビル、ホテルなどの建設）や岐阜市との通勤圏化、観光同線（岐阜城、長良川等との接続）などを進める。

羽島市には、竹鼻別院周辺の門前町的な町並み、美濃路（旧街道の面影）、竹鼻まつり（文化と町並みが連動）、古い商家・町家・蔵（非指定文化財が多い）などがあり、残しながら活用していく必要がある。カフェ・レストラン・ゲストハウス・ショップなど、経済効果にも期待できる文化財とする。また、徒歩や自転車等で回遊できるルートを整備し、地元の市民も活用できる生活機能と観光機能を両立させる必要がある。例えば、空き町家を古民家カフェにし、城下町風に山車文化の体験、夜間のライトアップなど検討する必要がある。

佐野市のように、映画・ドラマ・CMなどのロケ撮影を誘致、撮影支援を図るためには、木曾川・長良川に挟まれた魅力ある羽島市を発信するとともに、市民、企業などの協力が欠かせない。佐野市は行政主導のもと、民間との連携を図りながら、ロケの実績を積み、PR活動や市民エキストラを活用している。羽島市では、まずはロケ支援の担当窓口を設け、撮影場所の選定やロケ地のリスト等を作成する。そして、ロケ地として関係者へPR活動を行い、ロケ撮影の誘致などを進めていく。

## ・堀委員

今年度の行政視察「宇都宮LRT事業」は、県知事が発表した羽島市と岐阜市を結ぶLRTの先進事例であり、大変参考になるとして期待感を持って参加した。このLRT事業は、県主体の事業であり、開通した折には羽島市も岐阜市方面への通勤・通学がさらに便利になり、市の人口増にもつながることが期待できる。

歴史的街並み、伝統的建造物の保全・活用で訪れた栃木市では、市の組織として「蔵の街課、重伝建係」が組織にあり、羽島市も参考にせねばと思うところである。さらに、伝統的建造物群保存地区の都市計画決定がなされ、羽島市も見習いたいところが多々あった。

## ・山田委員

本年度、産業建設委員会は、観光とまちづくりをテーマとして先進地視察を行った。視察先は栃木県宇都宮市におけるLRT事業、栃木県栃木市における歴史的町並みの保存活用、栃木県佐野市におけるフィルムコミッションの取り組みについて学んだ。

宇都宮市においては、人口減少、高齢化、脱炭素社会など社会環境の大きな変化に対応するための都市づくりとして「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成に取り組んだ。路面電車の文化のない地域でのゼロからの挑戦で、国や県をはじめ沿線地域の住民や企業、公共交通事業者、学識経験者の支援・協力を得て開業ができた、などの説明を受け、その後「ライトライン」に乗車し、体験した。

栃木市では、歴史的町並み・伝統的建造物の保全・活用について、視察した。栃木市は大通りと巴波川を中心に土蔵、商家、明治大正時代の洋館が多く残されたいこともあり、昭和50年代以降、歴史的資源や自然環境を生かしたまちづくりに取り組んだ。昭和63年度県から「誇れるまちづくり事業」の指定を受けたことで、平成2年に「栃木市歴史的町並み景観形成要綱」を制定。形成地区を指定し、保存に取り組み、観光誘客を図っている。

佐野市では、フィルムコミッションについて視察した。フィルムコミッションとは映画やドラマをはじめ、各種映像作品の撮影を誘致し、ロケの支援を行うもので、佐野市では、ロケ地の紹介や交渉、必要となる手続きの案内、ロケ地への同行など、よりスムーズにロケが行われるよう努めている。さらに撮影された映像作品を通して、市のPRや観光誘客を図っている。

### ①LRT事業について

本市においても人口減少、高齢化、脱炭素社会など社会環境の大きな変化に対応するため、岐阜県のLRT構想を真摯に捉え、協力支援をしていく体制づくりを推進していく必要がある。

### ②歴史的街並み、伝統的建造物の保全・活用について

竹鼻中心市街地周辺には、格子戸のある町並みや酒蔵、寺、藤、山車蔵、大仏、歴史民俗資料館など、文化的資産が集約しており、歴史ある町並み保存のために「歴史的町並み景観形成要綱」を制定するなど、町並みの保存活用する必要がある。

### ③フィルムコミッションについて

市内には歴史ある文化資産があり、市のPRと観光誘客を図るため、フィルムコミッションの設立を進める必要がある。

今後も引き続き、市民の声を踏まえた実効性ある政策提言に取り組んでいく。

## 6 市への提言

羽島市は、岐阜羽島駅と岐阜羽島インターチェンジという全国でも稀有な交通条件を備えた都市であり、この強みを最大限に活かした都市ビジョンを描くことが重要です。岐阜県がLRT構想を検討している今こそ、羽島市としても10年、20年先を見据えたランドデザインを明確にし、交通インフラと観光、産業振興を一体的に捉えたまちづくりを進めるべき時期にあると考えます。具体的には、歴史的資源や地域文化を活かした観光拠点づくり、映像を活用した地域PR、さらには交通結節点としての立地を活かした企業誘致や交流人口の拡大など、複数の施策を連動させる戦略が求められます。交通の利便性だけでは人は集まりませんが、そこに魅力的なコンテンツと明確な都市戦略が加われば、羽島市は人が集い、交流と経済活動が生まれる都市へと発展する可能性を十分に持っています。今回の視察で得た知見を踏まえ、羽島市らしい持続可能な都市モデルの構築に向けた議論を深めていくことが重要であると考えます。

**※産業建設委員会の令和7年度意見交換会の結果、行政視察結果報告及び政策提言は市HPからご確認できます。**